

## 今号のピックアップ

- 2～3ページ 実務研修会開催「宿泊行事にかかる事務について」  
令和7年度 京都市立学校事務研究大会
- 4ページ 役員コラム



## 新年のごあいさつ

大阪市立小中学校事務研究会  
会長 竹口 知秀

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、新しい年を健やかに迎えられることと心からお慶び申し上げます。本年も旧年同様、本研究会活動への変わらぬご理解ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

さて、政府は昨年12月26日に令和8年度予算案を閣議決定しました。文部科学省の文教関係予算においては、昨年度に引き続き「質の高い公教育の再生」として、教員の学校における働き方改革の更なる加速化や、学校の指導・運営体制の充実等とGIGAスクール構想の更なる推進、学校DXの加速等に向けた予算が計上されています。また、新たな「定数改善計画」の策定のなかで、学校事務職員に関連する事項として、学校事務体制の機能強化を目的とした「複数の共同学校事務室を総括する事務職員定数の新設」が挙げられています。

大阪市においては、昨年12月18日に令和8年度の予算編成過程について、「令和8年度 予算事業一覧（12月1日要求段階）」として公表されました。教育委員会事務局の事業一覧では、昨年度に引き続き「学校給食費の管理（給食費の無償化）」の事業が挙げられているほか、新たに「学校における電話の通話録音装置、音声ガイダンスの導入」の事業が挙げられています。また、令和8年度より「公立中学校等における通常学級の学級編成標準の引き下げによる35人学級の段階的实施」や「小学校の体育館への空調機整備」が進められることが予定されています。今後も、国や大阪市の動向等を注視するとともに、正しい情報の収集に努めていきましょう。

年末、自宅の掃除をしていた時に、採用一年目に自分が書いたと思いきメモを見つけました。当時、一緒に勤務していた先輩のご指導のなかで、自分が特に重要だと思ったことをメモしていたようで、そのなかの一つに「主観だけで物事を判断しない」という文言がありました。これは決して、主観による判断を否定しているものではなく、「大阪市や学校にとっては？」「教職員や子どもにとっては？」という客観的な視点で日頃から物事を考えることの重要さと、色々な人とつながりを持ち、情報収集や自己研鑽することの大切さを教えていただいたものです。

今では、当時の自分では想像もつかないくらい多くの方々とつながりができ、数多くの貴重な経験をさせていただきました。そのつながりや経験を大切に、本年についても研究会スタッフとともに研究会活動に尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。最後に、会員の皆様の一層のご健勝とご多幸を心よりお祈りし新年のごあいさつとさせていただきます。



## 実務研修会開催「宿泊行事にかかる事務について」

令和7年12月4日（木）に大阪市立港区民センターにおいて、宿泊行事にかかる事務について、実務研修会を開催しました。宿泊行事における各業務を適切に行い、より円滑に業務を進められるようにすることを目的とし、時系列に沿って横断的にまとめた資料やパワーポイントを用いて研修しました。

仕様書作成～契約では、仕様書の記載項目や業者選定の手順、契約時における関係書類や収入印紙の取扱い等を中心に解説しました。下見にかかる事務では、事前の経路確認から、自家用車等の公務使用にかかる手順、旅費精算時における必要な添付書類等について説明しました。そのほかにも、出張内申、学校給食費、勤務時間割振、現地支払関係等、各業務における事務手続について紹介しました。説明のなかで、具体的な事例を題材に作成した寸劇を前方のスクリーンへ投影し、より効率的に業務を進められるよう関係教職員との連携方法など、実務のイメージを参加者と共有しました。



また、研修の間に「勤務時間割振の取扱い」、「学校事業資金により現地支払を行った場合の事業資金用現金出納簿及び領収証書（事業資金用）に記入する日付について」、「契約変更時における印紙税額」等を題材として取りあげ、参加者相互による意見交流の時間を設けました。各題材において活発な意見交流が行われ、理解を深める有意義な研修となったのではないのでしょうか。積極的にご参加いただき、ありがとうございました。

実務研修会では、先ほど取りあげた寸劇など研修方法に工夫を凝らし説明をしましたが、実務研修会資料には当日説明した内容に加えて、各業務におけるシステム入力例等を掲載しています。また市事研ホームページには、「ToDoリスト」についても掲載予定です。資料に掲載している内容に締切日や完了日を入力できる欄を加え、ご自身で管理できる仕様になっていますので、必要に応じてご活用ください。



大阪市立小中学校事務研究会



### 【掲載場所】

市事研ホームページ  
>資料掲載  
※会費納入時の領収書等に記載しているユーザー名・パスワードの入力が必要です。



会費納入済みの方はこちらのアイコンをクリックしてユーザー名とパスワードを入力してください→



## アンケートより（一部抜粋）

- ・マニュアルに沿いつつも細かい点まで分かりやすく説明があり、大変勉強になりました。特に徴収金に関して、マニュアルを読むだけでは解釈が難しいところがあると感じていたので、業務理解が深まりました。（中学校・5年～10年）
- ・業務の詳細や、いろいろなパターンが書かれており、今後の業務にとっても役立つと思いました。（中学校・5年未満）
- ・資料については、多岐にわたる事務処理が網羅されていました。パワーポイントは文字だけでなくイラストやミニ劇場で親しみやすさがでていました。説明内容も資料の順番どおりで聞きやすかったです。（小学校・21年以上）
- ・資料とパワーポイントと口頭説明がすべて少しずつ違って、それぞれの良さが出ていたのが良かったです。（中学校・11年～20年）

## 令和7年度 京都市立学校事務研究大会

令和7年12月12日（金）に京都市総合教育センター永松記念ホールにおいて、「みんなで創ろう！京の学び舎 ～子どもも大人もいきいきと笑顔あふれる学校をめざして～」を大会テーマとして、京都市立学校事務研究大会が行われました。

開会行事のあと、研究開発部より大会報告として、8月に行われた第57回全国公立小中学校事務研究大会（滋賀大会）の記録集を基に、研究を通して見えてきた課題や今後の展望などについて提案発表がありました。

続いて、東洋大学 文学部教育学部 大学院文学研究科教育学専攻 葛西 耕介 准教授より、「話題提供・グループディスカッション」と題し、「事務職員の校務運営参画の考え方」についてグループディスカッションを交えながら講演が行われました。



社会が急速に変化し、自動化やAIが普及するなかで学校事務職員には単なる作業の遂行ではなく、学校運営への積極的な参画やクリエイティブなマインドセットへの転換が求められており、従来の効率重視の管理モデルから脱却し、多様性を活かしたチーム学校の一員としてリーダーシップを発揮することが重要であると述べられました。また、グループディスカッションでは、「学校、教師、学校事務職員の10年後の予測を行い、その予測から学校事務職員にはどのような専門性や職能の開発が求められていると思うか」など正解のない問いについて、グループで探究しました。最後に、「事務の標準化・平準化を行っているところは必ずAIに取って代わられる。自分たちの職を守っていくためにも、学校事務職員は常にクリエイティブでなければならない。では、クリエイティブな学校事務職員であるためには具体的にどのような行動をしていく必要があるのか。」という問いが投げかけられ、大会は盛会のうちに終了しました。



## ～役員コラム～ 「学校事務のDXって？」

最近「大阪市DX戦略」に触れる機会があったのですが、本市ではデジタル技術を活用し、業務の効率化や市民サービスの向上が積極的に進められています。その一例としてさまざまな行政手続がオンライン化されており、いつでもどこでもサービスを受けられる便利さを、一市民としても実感しているところです。このDXは学校現場においても重要なテーマですが、日々の業務のなかで意識する機会は正直ありませんでした。



DXと聞くと、新しいシステムの導入や大きな業務改革を思い浮かべてしまいますが、めざしているのは単なるデジタル化ではなく、「業務のやり方そのものを見直し、より良い形に変えていくこと」です。これを自分ごとに置き換えて考えると、日々の業務のなかにある無駄や属人化、分かりにくさを減らし、だれにとっても進めやすい形に整えていくことが、DXの本質だと言えるのではないかと思います。

では、そのために私たち学校事務職員は、今日から何ができるのでしょうか。特別な知識や新しい機器がなくても、できることは意外と身近にある気がします。例えば、毎年の定型業務について「どんな手順で進めているか」「つまずきやすい点はどこか」などを書き出してみる。行事ごとに、やることリストや様式を作成し、注意点を整理したうえで、共有できる場所にまとめておくだけでも、次に同じ業務を進めるときの負担はいくらか減ります。

また、個人の経験や記憶に頼っている業務を、データとして残していくことも大切です。これは、急な休暇や異動への備えになるだけでなく、学校全体の業務の安定にもつながると思います。だれか一人が頑張るのではなく、仕組みで支えるという考え方は、「DX戦略」の方向性とも重なると感じています。

大きな変化を一気に起こす必要はありません。「この作業、もう少し分かりやすくできないかな」「来年の自分や次の担当者が助かる形にできないかな」と考えてみることで、DXの第一歩です。学校事務職員一人一人の小さな行動が積み重なり、学校全体の働きやすさを高めていく。そんなDXを、一步一步着実に進めていきたいですね。



### 編集後記

お忙しいなか、実務研修会にご参加いただいた皆様、ありがとうございました。皆様の業務の一助になれば幸いです😊

さて、冬休みはリフレッシュできましたでしょうか。私は寒くなってきたので外に出るのが辛くなっていましたが、程よく外出をしたりお家でゆっくり過ごしたりしていました。

また、先月は期末勤勉手当や給与改定による差額支給がありました。冬休み終了時の私のボーナス執行率は90%程度になったので少し反省をしていますが、公費の執行率も90%程度となっていました。年度末まで計画的に残予算の執行をしていきたいですね♪ (S)

